□■□　令和２年度　いちのみや探究デー　芸術・家庭・情報科研修　□■□

研究授業：2020 年 11 月 14 日(土) 13:20～14:05　於：音楽教室　1-7 音楽選択者

授 業 者：正富彩香先生(音楽)　　研究協議：14:20～15:30　於：書道教室

授業内容：日本の音階（五音音階）を使い作曲する創作の授業。音階や音楽を形づくる要素への探究、それを深めながら作曲させる。個人での探究、グループでの探究、全体での探究、それらをどのように設定すれば、より効果的な探究型授業になるかという観点で行った。

～研究授業を終えて～　授業者より

今回の授業では、グループでの探究を主軸に置いた。個人とグループ、それぞれの活動を分けて行うことで、個人とグループそれぞれの探究を深く行えるよう工夫した。個人の活動では思った以上に生徒が動いてくれた。創りたいものはあるが、それを表現するのに苦労している生徒は多かったと思う。

～研究授業から気づいたこと(改善点を含む)～

説明が少し長く感じる場面があった。スクリーンに映すものも含め、できるだけ内容をしぼった方がいいのではないか。やり方として指示をプリントで示して行うというやりかたも考えられる。しかしこれは、授業者だけの問題ではなく、本来２時間で行う内容を１時間でやらなければならないという設定上の無理もあったと考えられる。生徒はよくついていっていた。互いに話し合い表現を高めていく場面では、芸術と理科は似かよった部分があり、課題研究のそれとの類似点が多々あったように感じた。授業者からは今後の展開として、音階が限定されているから創りやすい面と、限定により創りにくい面があると思われる。音階が大事だということを学ばせた後、それを踏まえフリーでやらせてみたい気持ちもある。しかし苦手な生徒もいるため、その対応をどのようにするか、課題も孕んでいる。

～研究授業･研究協議を終えて～

上記の内容を受けての研究討議。限定することで見えてくることがある。限定することで下手な子がうまくいく場面がある。うまくいくという意味は「上手」ということと「いい」ということは違うということ。それが理解されれば、限定することに大きな意味が生まれてくる。限定すること、つまり一見不自由であることが、豊かさを生むことへつながる。表現にはそういう側面がある。それが新たな気づきになり、表現がより深い探究になり、表現の次元を上げていくことになる。またできる子ができない子に教えることで初めてわかることもある。それは互いに得難い探究となる。授業設定の目標としては、授業を受けた生徒が楽しかったと思える授業になっているかどうか。課題研究においても、研究を面白いと思ってやっているかどうかは重要なポイントになる。その次に論理的な正しさ、失敗に対する考察の有無がある。高校生では成果よりその姿勢を重視し、求めていくべきであろう。面白いと思い取り組める授業になっているかどうか。それがより深い探求型授業を生み、生徒個々の表現を豊かにし、進化させていく一番重要な点であろうと考えられる。